

登録コード	J5450200	開講年度	2026			
授業科目	産業組織論A				担当教員	本多 純
英文授業名	Industrial Organization A				副担当	
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	月曜・4時限	対象学年（23カリ対象科目）経：2年
講義室	経法第4講義室		授業区分	講義	遠隔授業科目	
信大コンピテンシー	非該当					
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」				【授業の達成目標】	
	経法23加（2026改）・応用経済，経法23加・応用経済					
	専門知識を応用・実践する力として，計量的分析手法によるデータ解析を用いたリスクの定量的評価，実験経済学による社会制度の機能の検証，医療や福祉の現場における社会調査の手法を実践した地域の問題発掘，法の経済分析を通じた法制度の効果・影響の検証，などのスキルを習得し，経済の実情に即した政策提言，あるいは企業行動の決定を行うことができる能力を身につける。			専門知識を応用・実践する力として，特定の産業や企業の実態を自ら調査・分析し，経済学的ロジックを用いて競争環境や政策・規制の影響を多角的に解剖するとともに，他者との議論を通じて説得力のある解決策や提言を導き出す力を身につける。		
	【2020年度以降加わった対象】専門領域での基礎知識として，経済学に基づく論理的思考法及び統計的分析手法を身につける。そして，経済理論の応用分野として，金融，公共政策，法や制度の経済分析をテーマとする3つの専門コースで，専門知識を具体的な問題解決に実践する力を身につける。			専門領域での基礎知識として，企業の競争戦略や独占禁止法の枠組みを多様な産業実態に適用し，市場構造や規制の影響を客観的な調査・データに基づき多角的に分析することで，現実の複雑な経済事象を論理的に解明する力を身につける。		
(2)授業で学べる「テーマ」	その他					
(3)全学横断特別教育プログラム	ストラテジー・デザイン人材養成コース、ライフクリエイター養成コース					
(4)授業の概要	本講義では、ミクロ経済学を軸に、現実の市場競争と企業戦略、規制の役割を実践的に学びます。ガソリンカルテルや地銀再編から、生成AI、プラットフォームビジネスまで、多様な事例を通じて理論と実社会の最前線を往復します。人手不足や物価高での価格転嫁といった生きた課題を議論し、ニュースの裏にある論理を読み解く力を養います。就活や実務で活かせるように、経済学の視点で世の中の仕組みを解剖し、課題解決へと繋げる思考力と応用力を磨きます。					
(5)授業計画	【授業設計の基本的な考え方】 本講義では、従来の理論から事例へという流れを逆転させ、特定の産業で今何が起きているかという問いから出発します。決算資料や政策ドキュメント、実態調査報告書を読み解きながら、背後にある経済学的ロジックを抽出していきます。 【授業計画】 第1回 【イントロダクション】 産業組織論の視角と最新資料の活用方法（企業・業界分析の基礎） 第2回 【食料品業界】 物価高騰下における価格転嫁の経済学（価格戦略・交渉力・垂直的關係） 第3回 【エネルギー市場】 カルテル・談合の実態と独占禁止法の役割（ゲーム理論・リニエンシー制度） 第4回 【サービス・コンテンツ産業】 知的財産（IP）戦略とライセンス契約の構造（垂直的制限・参入障壁） 第5回 【銀行・金融業】 地域独占の是非とM & Aによる市場構造の変化（市場画定・合併審査） 第6回 【公共インフラ産業】 自然独占の性質と公的規制の理論（自然独占・競争優位性・社会的余剰） 第7回 【情報通信・メディア】 データの集中とプラットフォームの経済性（ネットワーク効果） 第8回 【シェアリングエコノミー】 C to C市場におけるマッチングと信頼構築（情報の非対称性・シグナリング） 第9回 【中小企業・サプライチェーン】 垂直的關係と下請取引における諸課題（取引費用・ホールドアップ問題） 第10回 【製造業・ロボット産業】 自動化戦略とグローバル市場での競争優位（差別化・学習効果） 第11回 【モバイルエコシステム】 OS・アプリストアの囲い込みと最新の法的規制（ロックイン効果・直接規制） 第12回 【人材マッチング産業】 労働市場の流動化とギグワークの経済分析（マッチング理論・情報の非対称性） 第13回 【生成AI産業】 技術革新が将来の雇用や生産性に与える影響（創造的破壊・イノベーション） 第14回 【次世代エネルギー・宇宙産業】 不確実性の高い新市場における市場の失敗と政策（外部性・不確実性下の投資） 第15回 【全体総括】 産業横断的な戦略と日本経済の成長戦略（理論の応用と実践の統合）、アンケート ----- 期末試験 数回ごとに、授業内での理解度確認テスト（選択式）を実施し、学んだ内容の理解定着をサポートします。 【特記事項：計画の柔軟性について】 本講義では、リアルタイムで動いている経済事象や政策変更を重視します。そのため、学期末に実施す					

(5)授業計画	るアンケート結果や、進行中の法改正、企業の重大な戦略変更などにに基づき、講義の順序や扱うトピックの重点を適宜変更する可能性があります。常に最新の生きた資料に基づいた議論を優先します。
(6)成績評価の方法	・（最低限5回分の）定期的な確認問題（10%）： eALPSによる理解の定着確認。 ・授業内課題（40%）：（最低限7回分の）講義中の議論に対する記述式意見提出。 ・期末試験（50%）： 講義室にてeALPSを用いて実施。全編の総合的な理解度を判定。 すべてeALPSを利用して行います。
(7)成績評価の基準	S（秀）90-100点： 正当な理由なき欠席を除き、概ね全ての課題を提出し、かつ試験等で授業の例題を超える大きく超える高度な応用問題を解くことができる。 A（優）80-89点： 正当な理由なき欠席を除き、概ね全ての課題を提出し、かつ授業の例題を発展させた応用問題を解くことができる。 B（良）70-79点： 課題の提出率が標準的な水準（8割程度）に達しており、かつ授業の例題に基づいた標準的な応用問題を解くことができる。 C（可）60-69点： 課題の提出率が標準的な水準（6割程度）に達しており、かつ授業で示した例題と同レベルの問題を解くことができる。
(8)事前事後学習の内容	本講義では、提出を義務付ける事前課題（レポート等）は課しませんが、授業内での議論への貢献や自身の理解度を深めるため、以下の自習サイクルを習慣化してください。 ・ロジックの再構築（復習） 配布資料を再読し、扱った論理の核心を整理してください。友人や家族にその仕組みを解説できるレベルを目指す、理解が定着します。 ・経済学の視点でニュースを見る（予習・応用） 日常的にニュース（日経新聞等）に触れ、授業で扱った論理が当てはまりそうな事例を探してください。自分が使っているサブスクやコンビニの棚にある製品など、身近な事例への当てはめが、授業中の鋭い発言やテストでの応用力に直結します。
(9)履修上の注意	・数学的リテラシー 中学・高校レベルの数学（関数の増減、最大・最小など）を論理を組み立てる道具として活用します。数式を用いる他の講義と併せて受講することで、より汎用性の高い理解が可能になります。 ・出席と学習への参加 評価の40%を占める授業中課題は、その場での議論と連動しているため、原則として対面での出席を前提とします。課題やテストはすべてeALPSを通じて実施するため、ネットワークに接続可能なデバイスを必ず持参してください。
(10)質問,相談への対応	・対話の奨励 授業中・授業後を問わず、疑問点はその場ですぐに解消することを推奨します。教員への質問はいつでも歓迎します。 ・eALPSでのフィードバック 講義全般に関する意見や、授業内で消化しきれなかった深い議論については、eALPS上のフォーラムでいつでも意見交換が可能です。寄せられた意見は、次回の講義内容に積極的に反映させます。
【教科書】	指定しない。
【参考書】	講義の進行に合わせ、以下の資料をeALPS等を通じて提供します。 ・厳選されたリーディング・リスト 講義ノートの中で、各トピックの理解を深めるための参考文献を適宜紹介します。学術的な厳密さと読みやすさを兼ね備えた、エッセンスを凝縮した資料を提示する予定です。 ・深掘りのための補論・発展資料 時間の制約上、授業内で割愛した数理的詳細や高度な応用事例などは補論として紹介します。